



人権啓発コーナー

男女共同

4年に1度の「FIFAサッカーワールドカップ」がカタールで開催されました。世界的に大きなスポーツ大会の一つです。

審判はこれまで男性ばかりでしたが、今大会では初めて6人の女性審判員が出演し、日本からは、山下良美よしみさんが出場しました。

審判といえども、アスリートと変わらない運動能力が必要で、瞬時の判断力や毅然とした態度などが求められます。山下さんは「女性が審判することでもメリット・デメリットはありますか？」という質問に対して「どちらもありません」と答えました。

この言葉から、男女共同の気持ちで出場していることがわかります。今後の山下さんの活動を皆さんで応援しましょう。

子ども人権教室

10月30日と11月6日の2回に分けて、くまモンの形づくりと色付けを行いました。

個性豊かな、さまざまなくまモンが出来ました。



▲上手にできたよ！

人権啓発動画

テーマ ハラスメントのない安心・安全な職場づくり

日時 1月11日(水)13時30分
場所 文化センター

問 生涯学習課

☎0965・52・5860



▲11月の料理教室。もち粉で作った水餃子は腹持ちが良く、皆さん色んな形の餃子を作って楽しんでいました。サツマイモ餃子は甘くて箸が止まらなくなるおいしさです。



▲い草で染めた布で、くみボタンマグネットとヘアゴムを作るワークショップに、たくさんの人に来ていただきました。



▲11月12・13日に開催された「ひかわボタニカルマーケット」に、ワークショップを出店しました。



地域おこし協力隊 活動レポート②



▲Instagram

料理教室～簡単大根料理～

日時 1月28日(土) ①10時～、②13時30分～ (各定員10人)
場所 氷川町公民館 調理室 参加費 500円(当日徴収)
申込期限 1月20日(金)までに電話で申込み
持参物 エプロン、三角巾、マスク、タオル、保冷バッグ、水筒
申込先 地域おこし協力隊 蜂須(農業振興課内) ☎0965-52-5854

町民文芸

投稿先：〒869-4814 氷川町島地642番地
企画財政課宛(毎月5日必着)

短歌

朝ぼらけほろほろ散りし山茶花の
からくれないの夢あはれなり

北野津 井田 道寛

二年ぶりシルバーヘルパー町外へ
研修も有り交流も有る

西野津 古崎 スエノ

久々に天草方面日帰り旅の
煌らさぎ波晴れやか和む

西野津 古崎 栄子

迎春の用意整う物産館
いろ、ありて主婦を助ける

吉本 高橋 澄子

黒髪の白に変わりて母は今
青きリボンの空しさ知れり

吉本 高瀬 道昭

俳句

石の上古き神社へ春手水

北野津 井田 道寛

博多座はマスクで無言初しぐれ

西野津 古崎 スエノ

愛らしきひ孫の指のスマートホン

西野津 古崎 栄子

冬草のように生きたし老い我も

吉本 高橋 澄子



八火図書館だより

新年あけましておめでとござい
ます。今年もよろしくお願いします。
図書館は1月4日(水)から開館しま
す。今年も皆さんの読書生活がより
豊かになるようお手伝いしていきた
いと思います。たくさんのご利用を
お待ちしております。

新着図書紹介

一般書

リバー 奥田 英朗
老人ホテル 原田 ひ香
老いの玉手箱 樋口 恵子
徳川家康と9つの危機 河合 敦

児童書

きょうりゅうかくれんぼ アレックス・ラティマー
1まいのがようし 長坂 真護
パンしろくま 柴田 ケイコ
はりねずみのルーチカ 11
ーちいさな夜の音楽会ー かの ゆうこ

今月のひと森村 誠一

森村誠一は、埼玉県生まれの小説家・作家です。10年余りホテル勤務の経験があり、ホテルを舞台にしたミステリーを多く発表しています。「棟居刑事シリーズ」はたびたびドラマ化され、作品の大半が文庫化されています。

おすすめ図書

湊かなえのことば結び

湊かなえ

明日への元気がわいてくる楽しく優しいことばたち。湊さんの愛するものやリスナーとの温かな交流、小説講座、おすすめの本など、著者の魅力が満載の贅沢な1冊。



問 八火図書館

☎0965・62・3489

「雪国」VS「山の音」

法道寺 本田 花風

信吾は東京の会社の重役、息子修一と同じ会社に勤める。嫁の菊子はほっそり色白で、信吾は妻・保子の姉を思い出す。修一は結婚して二年足らずだが、もう他に女をこしらえている。信吾は菊子を不憫に思っている。菊子への淡い恋情の気持ち意識する信吾は、二人が別居した方がいいのではと、菊子に勧めるが、舅の温かさを日頃感じていた菊子は、自分のことを案じて労わる信吾の優しさに縋っていた。別居して、たった一人で修一の帰りを待つことは怖くて淋しいと菊子は言う。菊子は修一の浮気を知っていて、身ごもった子を墮胎していた。

このまま女との関係を続けるのならば子供は生まないと、修一に言っている。信吾は修一を叱責するが、人工中絶の費用も女から出させていたことを知り息子の顔龐に驚いた。妻と出戻りの房子と修一夫婦の日々の生活と、会社の関係者や知人との関わりを織り込み、信吾と菊子の心情を中心に物語は丹念に書き綴られる。信吾は自分が見たみだらな夢を思い出す。

川端と言えば、先にも書いたが、その濃密な表現は、翻訳が難しいと言われるようにノーベル文学委員会でも困惑したそうであるが、その川端の作品「山の音」は川端が意図的な作品の構図のもとに描かれているかは知る術もないが、「山の音」は単調な言葉を多く用いている。